

## 南海トラフの巨大地震による津波高・浸水域等及び被害想定等について

8月29日に、国から南海トラフの巨大地震による津波高・浸水域等及び被害想定が公表された。今後さらに、秋頃に経済的被害等を含めた被害想定全体像を、冬頃を目途に南海トラフ巨大地震対策の全体像を取りまとめることとされている。

### 1 今回公表された南海トラフの巨大地震について

- (1) 南海トラフで発生する地震・津波のうち、現時点の科学的知見に基づき、発生しうる「最大クラスの地震・津波」を推計したものであって、その発生時期を予測することはできず（次に発生する地震・津波を示すものではない。）、その発生頻度は極めて低いものであること。
- (2) 過度に心配することも問題であるが、避難をはじめから諦めることは最も避けなければならない。しっかりとした対策を講ずれば被害を減少させることができるため、国、地方公共団体等は、地震・津波対策を推進する必要がある。

### 2 震度分布・津波高・浸水面積等について

#### (1) 震度分布や津波高等を推計するための検討ケース

地震動は強震動生成域の位置等に関する5つのケースについて、津波高等は津波断層域（大すべり域等）の位置に関する11のケースについて検討された。

このうち岡山県に最も大きな影響を及ぼすケースは、主に、地震動については強震動生成域を最も陸側に設定した「陸側ケース」で、津波高等については「四国沖～九州沖に大すべり域等を設定した⑤ケース」であった。

#### (2) 震度分布

岡山県に最大の震度分布をもたらす「陸側ケース」の震度分布

市町村	従来	3/31	今回	市町村	従来	3/31	今回	市町村	従来	3/31	今回
岡山市	5強	6強	6強	備前市	5弱	6強	6強	矢掛町	4	6弱	6弱
倉敷市	5強	6強	6強	瀬戸内市	5強	6強	6強	新庄村	4	5強	5弱
津山市	5弱	5強	5強	赤磐市	5弱	6弱	6弱	鏡野町	5弱	5強	5強
玉野市	5強	6強	6強	真庭市	4	5強	5強	勝央町	5弱	5強	5強
笠岡市	5弱	6弱	6弱	美作市	5弱	5強	5強	奈義町	5弱	5強	5弱
井原市	5弱	6弱	6弱	浅口市	5弱	6強	6強	西粟倉村	5弱	5強	5強
総社市	4	6弱	6弱	和気町	5弱	6弱	6弱	久米南町	4	5強	5強
高梁市	4	5強	5強	早島町	5弱	6弱	6弱	美咲町	5弱	5強	5強
新見市	4	5強	5強	里庄町	5弱	6弱	6弱	吉備中央町	4	5強	5強

※アンダーライン箇所は、3月31日の公表から変更となった箇所（5強→5弱）

※「従来」とは、平成15年の中央防災会議による東海・東南海・南海地震の想定

## (2) 液状化可能性

本県の液状化可能性の計算結果は、別図1（陸側ケース）のとおり

## (3) 津波高及び浸水面積

### ア 津波高

#### 最大津波高 (m)

	従来	3/31	今回
岡山市(中区)	2.4	2.6	3
岡山市(東区)	2.7	3.1	3
岡山市(南区)	2.9	3.3	3
倉敷市	3.1	3.2	4
玉野市	3.1	3.4	3
笠岡市	3.1	3.3	4
備前市	3.3	3.7	3
瀬戸内市	3.4	3.5	4
浅口市	2.7	2.8	3

#### 平均津波高 (m)

	今回
岡山市(中区)	2
岡山市(東区)	2
岡山市(南区)	2
倉敷市	3
玉野市	3
笠岡市	3
備前市	2
瀬戸内市	3
浅口市	3

※市町村別の津波高の最高値を示した場合、特異な地点のみ示すことになる可能性もあることから、市町村の全域の平均値を併せて示した。

※ 今回新たに算定された津波高は、メートル（少数点）以下第2位を四捨五入し第1位を切り上げたメートル単位の数値で表示

### イ 津波浸水域等

本県に最大の津波浸水面積を生じさせるのは⑤ケースであり、その津波浸水域は、別図2・3（津波の浸水分布図）のとおり

別図2：津波が堤防等を越流すると堤防が破壊する場合

別図3：地震発生から3分後に震度6弱以上の地域の堤防が破壊する場合

## 3 人的・物的被害想定結果について

地震動に関する5ケース、津波に関する11ケースの別とともに、季節・時刻に関する3種類の特徴的シーン（①冬の深夜（自宅で就寝中）、②夏の昼（建物内の滞留人口が少ない）、③冬の夕方（火気使用が最も多い））と風速（平均風速と風速8m/秒の2ケース）の別について検討された。

地震動と津波や、発生時刻と風速の組合せで想定結果は大きく異なる。

なお、建物被害は全壊棟数について、人的被害は死者数について推計された。

### (1) 日本全体の被害想定結果

設定条件により大きく異なるが、東海地方、近畿地方、四国地方及び九州地方で、それぞれが大きく被災するケースは次のとおり。

#### ①東海地方が大きく被災するケース

全壊及び焼失棟数：約954千棟～約2,382千棟 死者：約80千人～約323千人

#### ②近畿地方が大きく被災するケース

全壊及び焼失棟数：約951千棟～約2,371千棟 死者：約50千人～約275千人

#### ③四国地方が大きく被災するケース

全壊及び焼失棟数：約940千棟～約2,364千棟 死者：約32千人～約226千人

#### ④九州地方が大きく被災するケース

全壊及び焼失棟数：約965千棟～約2,386千棟 死者：約32千人～約229千人

## (2) 岡山県の被害想定結果（被害が最大となるもの）

### ア 建物被害

地震動：陸側ケース、津波：⑤ケース、冬の夕方、風速8m/s のケース

項 目	
揺れによる全壊	約18,000棟
液状化による全壊	約5,200棟
津波による全壊	約90棟
急傾斜地崩壊による全壊	約200棟
地震火災による焼失	約11,000棟
合 計	約34,000棟

※堤防・水門が正常に機能しなかった場合は建物被害が約1,100棟増

(参考) 従前の被害想定（東南海・南海地震による被害想定）

- ・中央防災会議専門調査会によるもの 約8,300棟
- ・県調査によるもの 95,487棟（火災等による）

### イ 人的被害

#### ①死者数

地震動：陸側ケース、津波：⑤ケース、冬の深夜、風速8m/s のケース

項 目	
建物倒壊による死者数 (うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)	約1,100人 (約80人)
津波による死者	約40人
急傾斜地崩壊による死者	約10人
地震火災による死者	約10人
合 計	約1,200人

※堤防・水門が正常に機能しなかった場合は死者数が約600人増

(参考) 従前の被害想定（東南海・南海地震による被害想定）

- ・中央防災会議専門調査会によるもの 約50人
- ・県調査によるもの 821人（火災等による）

#### ②負傷者数

地震動：陸側ケース、津波：⑤ケース、冬の深夜、風速8m/s のケース

項 目	
建物倒壊による負傷者数 (うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)	約17,000人 (約2,100人)
津波による負傷者数	約20人
急傾斜地崩壊による負傷者数	約20人

地震火災による負傷者数	約70人
ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物による負傷者数	約20人
合 計	約17,000人

※堤防・水門が正常に機能しなかった場合は負傷者数が約20人増

#### 4 今後の県の対応

今回国が用いたデータを提供いただき、県独自に収集した地形・地質データ等を追加するなどして、来年2月を目途に、津波浸水予測図や液状化危険度分布図を作成するとともに、さらに詳細な被害想定等を行うこととしている。今後これらの被害想定結果や、国が冬頃を目途にとりまとめる南海トラフの巨大地震対策の全体像を踏まえ、昨年度修正した県地域防災計画の更なる見直しを行うとともに、市町村とも緊密に連携して、ソフト・ハードの両面から着実に地震・津波災害対策を進めることとしている。

#### (参考) 今後のスケジュール (予定)

	国	県
H24. 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>津波高・浸水域及び被害想定（直接的被害）公表</li> <li>被害想定（経済被害等）公表</li> <li>南海トラフの巨大地震対策の全体像とりまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害想定、震度階級分布図・津波浸水予測図・液状化危険度分布図作成</li> <li>県地域防災計画見直し</li> </ul>
秋頃		
冬頃		
H25. 2		
3		